

## 平成28年度 ケアハウス もあやんぐ 事業報告

- 1 利用定員 60名
- 2 営業日 無休
- 3 営業時間 24時間体制
- 4 組織目標について

### <経営目標>

- ・年間入居契約率99%の達成を目指す  
安心・安全・快適なケアハウスでの生活の提供を通して、地域の社会福祉の向上に貢献すると共に、経営安定化と財務体質を強化する。

その為の具体的な取り組みとして、

- ① 地域包括支援センターの再編に伴い、今後、新しい地域包括支援センターとの関係性を密にするため、定期的に訪問することにより、入居につながる情報を収集し、入居契約率の向上と安定化に活かす。
- ② 近隣地域の低所得・独居等の高齢者の情報を、今後、定期的に開催する「茶房 もあやんぐ」に来られる地域住民との交流を通して、積極的に収集すると共に、競合施設（サービス付高齢者住宅等）には無いケアハウスの強みである、低料金・安心・安全・快適な生活の提供できる施設である点を積極的に情報発信し、潜在的な入居見込者を確保する。

### <実績・成果・反省>

- ・年間入居契約率97,7%。
- ・今期の経営目標達成に至らなかった要因として、まず、年間入退居者数が、例年10人前後あるところが、今期は、退居者数3人、新入居者数4人と、極めて少数であったことがあります。

また、数少ない退居者の内2人が夫婦部屋の入居対象者であった為、夫婦部屋の入居希望者の確保に、約半年間を要したことで、空室が長期化しとことが挙げられます。

- ・今期の反省を踏まえ来期に向けては、上記①②の取り組みをより効果的に継続し、よりきめ細かく地域関係者に対して、施設の情報発信と支援を必要とする高齢者の情報収集を行い、経営資源となる有益な情報を蓄積・活用することで、経営目標の達成を目指します。

#### <サービス目標>

- ・地域福祉の向上と、地域包括ケアシステムの構築に寄与する取り組みを行う

地域福祉向上への貢献が期待される中、介護予防事業である予防通所介護事業は、平成29年度末までに、地域支援事業への移行が決まっており、その移行への準備と環境整備を行う。

その為の具体的な取り組みとして、

- ① 岡保公民館で開催されているサロンへ、ケアハウスの外出行事としてコミュニティバスを利用して定期的に外出することにより、地域住民との交流を深める取り組みを行う。
- ② 今後、モアヤング前へ地域のコミュニティバスのバス停が新設される見通しである為、バス停設置後は、入居者が積極的にコミュニティバスを利用して外出し、地域住民と交流を深める取り組みを行う。

#### <実績・成果・反省>

- ・上記①の取り組み成果として、岡保サロンへの参加を施設の外出行事として毎月1回定期的に開催したことで、毎回2～3名の入居者が継続的に参加するようになり、岡保地区住民との交流が定着した。
- ・上記②の取り組み成果として、入居者がコミュニティバスを利用し易くなったことで、地域の行きたいところへ安価で行き易くなり、地域社会に触れる機会が増え、入居者の活動性が高まった。
- ・今期の成果を基に来期に向けては、上記①②の取り組みを地域に密着しながら、より効果的に継続することで、サービス目標の達成を目指します。

#### <業務目標>

- ・入居者及び、入居者家族からの様々なニーズに対応する  
既存の業務マニュアルの見直しと、新たに発生する業務の業務マニュアルを作成することで、多様化・高度化・複雑化する様々なニーズへ

の、職員の対応力の強化を行う。

その為の具体的な取り組みとして、

- ① 事務費の説明ツールとして、ケアハウスの事務費の算定方法をイラスト化（絵や図）して「ケアハウス事務費 Q&A」を作成し、運用する。これにより入居者にとっては、これまで理解が困難であった、事務費の算定方法の容易な理解が可能となる。また、新入職員やデイ・居宅の職員も Q&A を活用し、見学対応や問い合わせ対応を強化する。

#### <実績・成果・反省>

- ・上記①の取り組み成果として、「ケアハウス事務費算定の Q&A」を図やイラストを使って分かり易く作成・運用したことで、入居契約の際の説明はもちろん、毎年5月～7月に実施する事務費負担額の更新の際の説明においても、入居者や家族の理解が容易となり、これまで説明に要していた時間と労力が大幅に削減された。
- ・今期の成果を基に来期に向けては、上記の取り組みとは別の新たな課題に取り組み、より効果的に業務の標準化と合理化を推進することで、業務目標の達成を目指します。

#### <職員教育目標>

- ・職員の育成とチーム力（現場力）を高める組織体制を確立する  
職員個々の成長と施設の発展の為に、専門的知識や介護のプロとしての技術を習得する等の自己研鑽を行う。

その為の具体的な取り組みとして、

- ① 外部講師による研修会を開催し、全国の福祉施設での事故やアクシデント等の具体例及び、その後の対応に関する説明を聞き、今後のケアハウスとしての事故対応を充実させる。
- ② 県内の同業他施設へ見学に行き、そこの職員とケアハウスの業務に係る、具体的な情報交換を行うことにより業務の改善に繋げると共に、視野を広げ、見識を深めることで、更に強固な組織体制を確立させる。

#### <実績・成果・反省>

- ・①の取り組み成果として、7月に外部講師を施設に招き、熱中症に関する研修会を開催。職員及び入居者合計15名が参加し、熱中症の予防法

と対処法についての理解を深め、夏場における入居者の熱中症による事故を防止する体制作りにとって有意義な研修となった。

- ・②の取り組み成果として、12月に特定施設入居者生活介護サービスを実施している「ケアハウス九頭竜」様に、職員5名が視察に行き、主に特定施設入居者生活介護サービスについての情報収集や意見交換を行い、当施設が平成30年度に計画している特定施設入居者生活介護サービスの導入に向けた体制作りにとって有意義な機会となった。
- ・今期の成果を基に来期に向けては、上記の取り組みとは別の新たな課題に取り組み、より効果的に職員個々の育成とチーム力を高める取り組みを推進することで、職員教育目標の達成を目指します。

## 平成28年度 デイサービスセンター モアヤング 事業報告

- 1 利用定員                      35名（月曜日～金曜日）    10名（土曜日）
- 2 営業日                        毎週、月曜日～土曜日（12/31～1/3まで定休日）
- 3 営業時間                      午前8時30分～午後5時30分
- 4 組織目標について

### <経営目標>

- ・ 年間稼働率86%の達成を目指します。

その為の具体的取り組みとして

- ① 毎月の居宅報告書を直接事業所へ持参し、担当ケアマネジャーとの信頼関係の構築と新規利用者の情報収集を行う。
- ② 3か月ごとに「デイサービス通信」を作成・発行し、それを活用して福井市内の居宅支援事業所を訪問する。
- ③ 新規居宅事業所からの依頼件数3件を目指す。
- ④ 午後からの半日利用の受け入れも積極的にする。

### <実績・成果・反省>

- ・ 年間稼働率73,5%。
- ・ 今期の経営目標達成に至らなかった要因として、まず、年間で新規利用者数が16人に対し、利用終了者数が27人、差し引きマイナス11人と契約利用者数が減少したことがあります。  
また、既存の利用者の高齢化と重度化により、長期入院者や長期ショートステイ利用者が増加したことで、利用日数が減少したことが挙げられます。
- ・ 今期の反省を踏まえ来期に向けては、上記①～④の取り組みをより効果的に継続し、よりきめ細かく地域関係者に対して、事業所の情報発信と支援を必要とする高齢者の情報収集を行い、経営資源となる有益な情報を蓄積・活用することで、経営目標の達成を目指します。

### <サービス目標>

- ・利用者様が在宅で可能な限り暮らすためのサポート役に努めます。

その為の具体的取り組みとして

- ① 家族様へ積極的に声掛けをし、利用者様の在宅での様子を把握するとともに、家族様との関係性作りを構築していく。
- ② 在宅で可能な限り暮らせるために、常に自宅での暮らしに焦点を合わせ、サポートしていく。
- ③ 他事業所と連携が図れるような関係性を構築していく。  
(すぐに連絡が取れるように各事業所連絡先一覧表を作成する)
- ④ 職員は、担当利用者様を1人ずつ決め、その利用者様の目標設定を定める。その目標に向かって、他職種が協同して取り組んでいく。

### <実績・成果・反省>

- ・上記①～④の取り組み成果として、まず、職員と利用者家族との信頼関係がより一層深まり、利用者の自宅での生活状況や家族が抱えている困りごと・心配事を把握し易くなったことがあります。

また、事業所内の多職種で個々の利用者の情報共有と目標達成に向けた働きかけを協同して実施し、さらに他の介護サービス事業所とも利用者の情報を共有し協力連携することで、利用者とその家族が、在宅生活での負担を少しでも軽減でき、できるだけ長く在宅生活を続けられるような解決策の提案につながっています。

- ・今期の成果を基に来期に向けては、上記①～④の取り組みを地域に密着しながらより効果的に継続し、サービス目標の達成を目指します。

### <業務目標>

- ・常に業務の効率化を考え、改善していく努力をします。

その為の具体的取り組みとして

- ① 月1回業務の検討会を開催し、見直しを行う。  
現在の各担当者の担当業務の見直しを行い、これまで以上に業務効率を高めることで、新たな時間を捻出できるようにする。
- ② 週間、月間、年間予定表の見直しを行う。
- ③ 各担当業務の見直しを行う。

<実績・成果・反省>

- ・上記①～③の取り組み成果として、これまで掛かっていた業務に要する時間と労力が削減され、利用者へのサービス提供内容の充実と職員の業務改善意識の向上につながった。
- ・今期の成果を基に来期に向けては、上記①～③の取り組みをより効果的に継続し、業務の標準化と合理化を推進することで、業務目標の達成を目指します。

<職員教育目標>

- ・地域包括ケアシステムの役割の理解と順応な対応ができるようにします。

その為の具体的取り組みとして

- ① 平成29年度より「介護予防・日常生活総合支援事業」への移行に対し、速やかに情報を収集し、すみやかに移行できるようにする。職員への周知徹底するために勉強会を年4回開催する。
- ② 他事業所や法人内の他部署への研修を実施する。(1人1ヶ所)
- ③ 経験年数に併せた資格取得の為の支援をする。

<実績・成果・反省>

- ・①～③の取り組み成果として、平成29年度より福井市において新たに実施される「介護予防・日常生活総合支援事業」の制度内容について、勉強会を通して全職員が理解できたことで、当事業所としても平成29年4月から「介護予防・日常生活総合支援事業」のA型サービスの実施につながった。
- ・今期の成果を基に来期に向けては、上記①～③の取り組みをより効果的に継続し、職員個々の育成とチーム力を高める取り組みを推進することで、職員教育目標の達成を目指します。

## 平成28年度 モアヤング こもればいホーム 事業報告

- 1 利用定員 80名
- 2 営業日 無休
- 3 営業時間 24時間体制
- 4 組織目標、ビジョンについて

### <経営目標>

- ① 年間入居率96%を目指します。

入院で空床になった部屋を出来る限りショートステイで利用できるようにします。

又、居宅、デイサービス、ケアハウスと連携を密にしながら稼働UPします。

### <実績・成果・反省>

H28年4月～H29年3月までの退去者18名

H28年4月～H29年3月までの入居者12名

H28年4月～H29年3月までの平均稼働率 94.68%

・H28年1月～4月までの平均稼働率は97.46%だったが、夏季に入院から退所への傾向が大きく、H28年9月までの平均稼働率は93.33%。H28年12月に稼働率を96.33%まで回復するが、H29年1・2月で9名と年間退所者の半数が2ヶ月間に集中し稼働率の急激な低下となった。

・また前年度と比べ入居者の超高齢化、重度化及び施設滞在日数の減少と言う事もあり年間の稼働率において不安定であった。

### <教育目標>

- ① 介護福祉士取得率向上に努める。  
介護福祉士合格者4名。
- ② OJT・OffJTによる年間教育を行う。  
外部研修に職員が積極的に参加。
- ③ 外部講師を招き勉強会を開催する。  
8月に感染（スキンケア）勉強会を実施。



11月に身体拘束（拘束全般）勉強会を実施。

<家族との交流目標>

家族との交流を深め、イベントに積極的に参加していただく。

<実績・成果・反省>

- ・ユニット毎の行事をお知らせし、家族と一緒に参加を実施。
- ・9月は秋祭りを実施。家族や地域の方々に参加して頂いた。また、12月、1月にアニマルセラピーを行い、利用者と家族の交流を深める場となった。

<ケアにおける方針>

利用者の気持ちを考えて思いやりのある介護を目指す。

「ご利用者様の生活が快適であること」を一番に考え、きめ細やかな対応をしていきます。ご利用者の言葉に親身に向き合い、共感を示し利用者の本来の生活スタイルに少しでも近づけるような介護サービスを提供していきます。

担当職員とご家族・ご利用者との信頼関係を構築する。

<実績・成果・反省>

- ・利用者の気持ちを考え、より思いやりのある介護士を目指すために、言葉使いポスターを作成。職員更衣室の目につく所に張り、2ヶ月毎に張替えを実施。また朝礼時には日々の代表者を指名し基本挨拶を唱和している。

<特色と方向性について>

「こもれびホーム職員としての誇りと自覚を持つ」を目標に励んでいきます。積極的に家族参加イベントを企画し、家族の希望、家族と利用者との関わりを通して、そこから職員も学び、成長していきたいと考えます。また、自立支援介護（ADLを自立させ、認知症の症状を消失させること、そしてそれを維持すること）を目指し、介護のプロとして社会に貢献していきます。

具体的な取組み

- ① 専門職として根拠に基づいた知識・技術を身につけ、おむつゼロと自立支援に向けて、4つの基本ケア（水分・食事・排便・運動）を実践していきます。ご利用者のその人らしい自立した生活を営むためのケアの向上に努めていきます。

<実績・成果・反省>

・水分平均 1376ml・常食 22.5%。常食に向けては、細から粗への変更を行った。前期は3名、後期は6名の計9名。

・経管（胃ろう）から経口摂取への移行にトライしている方が1名（継続中）

・車椅子から歩行器になった方が2名。今後も下剤を減らす取り組みとしてセンナ茶・オリゴ糖・きな粉・水分を摂取して頂く。

② ご家族参加企画・夢（やりたい事）の実現を増やしていきます。

ご家族の方を身近に感じ、接する事により、社会性や視野を広めます。そして専門職としての立場や責任を改めて認識します。また、このような企画を作成し、達成することで職員のやりがいと活性化を図ります。合わせて、ご利用者の楽しみ・やりたいことも一つでも実現していきます。

<実績・成果・反省>

・2ヶ月に1回ビーズ作りや、思い出作りとして4人の利用者に職員が付き添いご自宅に一時帰宅し、ご家族やご近所の方と僅かではあるが楽しい時間を過ごし満足頂けた。

③ 緊急時の対応を全員が確実にできるようにします。

日中・夜間帯等、人数が少ない時でも全員がスムーズに対応できるようマニュアルを周知していきます。また、定期的に研修を行い迅速で正しい判断・対応ができるようにし、ご利用者への更なる安心を提供していきます。

<実績・成果・反省>

・年間を通し職員に対して、定期的な研修を実施するなど、伝達する機会を設ける事が出来なかったが、緊急時の対応のマニュアルを見直し修正。11月にAEDの講習会を施設外に行き実施した。

④ 介護記録の目的として、「ご利用者の生活の証」と「提供者の支援の証」を残し、利用者の生活環境を把握し、情報の共有化・ケアの継続性や統一性を確保し、より質の高いケアを目指すために、一年を通して、記録の勉強会を実施していきます。

<実績・成果・反省>

・他職種から、記録に関して意見等を収集し、情報 UP を実施。1 年を通して介護記録に関わる勉強会を実施することは出来なかったが、記録を現状どれだけ把握しているかチェック表を作成し集計を基にアンケートを行った。アンケート結果にて出来ていないところなどを、今後重点に指導していけるように進める。

## 平成28年度 モアヤング介護相談所 事業報告

- |        |  |
|--------|--|
| 1 利用定員 | 35名（常勤介護支援専門員一人あたり）                                    |
| 2 営業日  | 毎週、月曜日～金曜日   |
| 3 営業時間 | 午前8時30分～午後5時30分<br>（営業日、営業時間外の緊急時は24時間<br>電話連絡・相談対応可能） |

### <経営目標>

- ・年間月平均給付管理件数70件を目指します。

その為の具体的な取り組みとして

- ①入院時情報連携加算、退院退所加算の算定を徹底する。
- ②サービス調整、担当者会議の開催、ケアプラン作成を速やかに行い、可能な限りその月の給付管理を行う。（月末の退院やレンタルの開始を翌月開始にしない）
- ③新包括支援センター（あずま、大東、不死鳥）への定期訪問を行ない、新規給付管理につなげる。

### <実績・成果・反省>

- ・年間月平均給付管理件数66,5件。
- ・今期の経営目標達成に至らなかった要因として、まず、期初の給付管理件数63件に対し、年間で新規契約者数が17人、契約終了者数が8人、差し引きプラス9人、期末給付管理件数65,5件と契約利用者数は増加したものの、月平均70件に至るまでの利用者の確保には及ばなかったことがあります。

また、既存の利用者の高齢化と重度化により、長期入院者が増加したことで、在宅介護サービスの利用月数が減少したが挙げられます。

- ・今期の反省を踏まえ来期に向けては、上記①～③の取り組みをより効果的に継続し、よりきめ細かく地域関係者に対して、事業所の情報発信と支援を必要とする高齢者の情報収集を行い、経営資源となる有益な情報を蓄積・活用することで、経営目標の達成を目指します。

#### <サービス目標>

- ・ご利用者、ご家族への支援の充実、満足度の向上を図ります。

その為の具体的な取り組みとして

- ①独居、老夫婦世帯へは、日頃よりこまめに連絡する。またサービス事業所からの状況確認を行い、家族との情報共有を図る。
- ②ご利用者ご家族の性格、特性の理解と主体性を尊重し、マネジメントを行う。
- ③メディカルネットの活用により、医療との連携を図り、体調の管理や病状の悪化防止につなげる。
- ④ケアハウス入居者はケアハウス職員との情報共有を図り、必要時の訪問にとどめる。

#### <実績・成果・反省>

- ・上記①～④の取り組み成果として、まず、担当職員と利用者家族との信頼関係がより一層深まり、利用者の自宅での生活状況や家族が抱えている困りごと・心配事を把握し易くなったことがあります。

また、他の介護サービス事業所とも利用者の情報を共有し協力連携することで、利用者とその家族が、在宅生活での負担を少しでも軽減でき、できるだけ長く在宅生活を続けられるような解決策の提案につながっています。

- ・今期の成果を基に来期に向けては、上記①～④の取り組みを地域に密着しながらより効果的に継続し、サービス目標の達成を目指します。

#### <業務目標>

- ・業務の効率化、作業の時間の短縮を図ります。

その為の具体的な取り組みとして

- ①要支援利用者については基本3ヶ月に1回の訪問にする。
- ②提供票の配布等手間のかかる作業を見直す。
- ③月間業務の見直しを行い、月末にゆとりを持たせ、急な新規対応に備える。
- ④報告・連絡・相談を簡潔に出来るよう努力する。

<実績・成果・反省>

- ・上記①～④の取り組み成果として、これまで掛かっていた業務に要する時間と労力が削減され、利用者とその家族への相談対応の充実と職員の業務改善意識の向上につながった。
- ・今期の成果を基に来期に向けては、上記①～④の取り組みをより効果的に継続し、業務の標準化と合理化を推進することで、業務目標の達成を目指します。

<職員教育目標>

- ・医療ニーズの高い利用者への支援方法を身につけ、スキルアップを図ります。

その為の具体的な取り組みとして、

- ①難病や精神疾患等医療知識や医療と介護の連携に関する外部研修への参加を行う。
- ②医療ニーズの高い利用者の新規の受け入れを積極的に行い、実践より支援方法を身につける。
- ③メディカルネットの活用や訪問看護、訪問診療との連携、また入退院時の情報提供やカンファレンスを積極的に行うことで、医療職との垣根を低くし、相談しやすい環境をつくる。

<実績・成果・反省>

- ・①～③の取り組み成果として、11月に職員1名が、地域包括支援センター主催の医師を含む多職種連携を目的とした事例検討会に事例提供者として参加する機会があり、事例検討会を通して医療従事者との関係性と医療依存度の高い利用者への対応力の向上につながった。
- ・今期の成果を基に来期に向けては、上記①～③の取り組みをより効果的に継続し、職員個々の育成とチーム力を高める取り組みを推進することで、職員教育目標の達成を目指します。